

## ケニアから今年度も研修員を受け入れ

林木育種センターでは、(独)国際協力機構(JICA)を通じ、平成24年からケニア森林研究所(KEFRI)への技術協力「気候変動への適応のための乾燥地耐性育種プロジェクト」を進めています。毎年、各分野の専門家を派遣して現地では技術指導を行うとともに、日本への研修員の受け入れを行って、乾燥に強く生産性の高いケニアの郷土樹種であるメリア(センダン科)などの優良品種の開発・普及に取り組んでいます。

今年度は、5月18日から6月28日にかけて4コース(プロジェクト管理、育種理論、DNA分析、普及)計7名の研修員をケニアから受け入れました。プロジェクト管理コースではエビィ・チャガラKEFRI副所長を迎え、我が国の育種分野の研究や優良品種の普及方法などについて研修を行うとともに、育種成果の普及方法など幅広い意見交換を行いました。他の3コースの研修員たちも、4週間の間、今後のプロジェクト推進に必要な知識、技術などの習得に励むとともに、各自の研修成果の発表を行って、それぞれ帰国の途につきました。

(海外協力課)



研修員による所長表敬



KEFRI副所長へのゲノム解析の説明

## WOOD JOB! ～神去なあなあ日常～ 公開記念キャンペーンへの苗木提供

林野庁がバックアップしている林業をテーマとした映画「WOOD JOB! ～神去なあなあ日常～」の公開記念キャンペーン用に少花粉スギの苗木を提供しました。



信越放送



RCC中国放送

「WOOD JOB! ～神去なあなあ日常～」  
植樹キャンペーン

写真は (C)2014 「WOOD JOB!  
～神去なあなあ日常～」製作委員会提供

## 林木育種センターの植物紹介

林木育種センターで研究・保存している植物をご紹介します。

キリ属は中国を分布域の中心とする落葉広葉樹の1グループで、分類には諸説ありますが約7種が知られています。成長はきわめて良好であり、また材は軽い割に強度が大きく、耐熱性・防湿性にも優れているため、世界各地で盛んに植栽されています。日本にはキリ、ココノエギリ、ウスバギリなどが導入されており、最近まで重要な特用林産物のひとつでした。林木育種センター構内にも、中国産の種子に由来する複数種の苗が植えられています。

キリは同属の中では最も普通に見られる種で、他種と比較すると、がく片の切れ込みが深い、がくの毛が落ちにくい等の違いがあります。晩春の頃に郊外の里山に行けば、淡い紫色の花を咲かせている姿にたやすく遭遇することができるでしょう。一方で、成長の良さが逆に災いしてか、公的機関による組織的な系統保存はほとんど行われていないようです。

文責・イラスト：  
遺伝資源部 保存評価課 大谷雅人

### キリ

学名: *Paulownia tomentosa*



林木育種情報 No.16

平成26年7月25日発行

独立行政法人 森林総合研究所 林木育種センター

〒319-1301 茨城県日立市十王町伊師 3809-1

TEL : 0294-39-7000(代)

FAX : 0294-39-7306

ホームページ <http://www.ffpri.affrc.go.jp/ftbc/index.html>

※紙へリサイクル可

